

T2 iDDR

INTELLIGENT DIGITAL DISK RECORDER

リリースノート

Software Version 1.4 (SP4 2011 年 11 月)

使用上の注意事項

VGA ディスプレイの接続について

VGA ディスプレイを本機に接続する場合は、本機の電源がオフの状態で行ってください。電源が入っている状態でディスプレイの接続、もしくは取り外しを行うと本機が再起動するおそれがあります。

USB 機器の接続について

本機の録画、もしくは再生中に USB 機器を接続したり、取り外したりしないでください。録画、もしくは再生中の映像・音声途切れるおそれがあります。

IEEE1394 端子の使用について

本機前面、および背面にある IEEE1394 端子はハードディスクなどのストレージ機器接続用の端子です。この端子に DV もしくは HDV 機器を接続することはできません。誤って接続した場合は、Windows のハードウェアウィザードの画面が表示されますので、画面内の[キャンセル] ボタンをクリックして、すみやかに接続した機器を取り外してください。

外部ストレージ機器へのエクスポートについて

本機に USB ハードディスクなどを接続してファイルエクスポートする際は、接続する機器が NTFS でフォーマットされていることをご確認ください。FAT32 でフォーマットされている場合、本機は 4GB 以上のファイルを接続した機器にエクスポートすることができません(警告メッセージが表示されます)。接続する機器が FAT32 でフォーマットされている場合は、他のパソコンへ接続して NTFS でフォーマットするか、ファイルシステムを NTFS へ変換してください。

また、HPFS (Macintosh でフォーマットされたディスク) や、Linux 等でフォーマットされたディスクは使用できません。

ウイルスソフトウェアのインストールについて

本機にアンチウイルスソフトウェアをインストールしないでください。アンチウイルスソフトウェアをインストールするとディスクアクセスなどのパフォーマンスが下がるため、録画・再生が停止したりコマ落ちが発生するおそれがあります。

また、本機に USB メモリやハードディスクを接続する場合は、PC を使用してあらかじめそれらがウイルスに感染していないことを確認してから本機に接続してください。

SP4 の新機能

- XDCAM EX メディアファイルのネイティブ再生に対応しました※1。
- AVCHD メディアファイルのネイティブ再生に対応しました※2。
- MXF OP-1a コンテナの Grass Valley HQ ファイルに対応しました※3。
- プレイリストをメディアファイル(Grass Valley HQ もしくは XDCAM HD)として出力する機能を追加しました。
- リモートモード中のローカル操作に対応しました。
- RS-422(BVW)の REC コマンドに対応しました。
- 再生・録画中に GPI 端子からタリ-信号を出力する機能を追加しました。
- ビデオ編集ソフトウェアのバッチキャプチャリストを使用して VTR を制御するバッチキャプチャに対応しました※4。
- サムネイルのタイル表示モードを追加しました。
- プレイリスト作成時にイベント内容の既定値を設定する機能を追加しました。
- ネットワーク接続した複数の T2 間で素材の同期をする機能を追加しました。
- プレイリストをインポート・エクスポートする機能を追加しました。
- GPI 制御を使用した複数台の T2 を同期再生する機能を追加しました。
- シャットダウン時にマウント・再生位置情報を保持する機能、次回起動時に保持した情報を元に自動的に再生を開始する機能を追加しました。
- 1%刻みで再生速度を調整するキーボードショートカットを追加しました。
- 操作後に自動的にフォーカスを移動するキーボードショートカットを追加しました。
- ブラウズタブの参照、ネットワークドライブの設定状態をシャットダウン後も保持する機能を追加しました。
- インポート中に P2(MXF OP-Atom コンテナ)を MXF OP-1a コンテナの Grass Valley HQ ファイルへ変換する機能を追加しました。
- プレイリストのイベント毎に任意のタイムコード(ソース TC, 任意の TC、プレイリストの TC)を選択する機能を追加しました。
- ネットワーク経由で T2 の電源を投入する機能(Wake on LAN)を追加しました。

※1 使用できる最大チャンネル数は 1IN/1OUT になります。 ※2 使用できる最大チャンネル数は 0IN/1OUT になります。 ※3 EDIUS 上で MXF OP-1a コンテナのファイルを出力する場合は、BC Export オプションが必要です。 ※4 EDIUS, AVID, Final Cut Pro のバッチリストに対応しています。

更新履歴(不具合修正)

以下の不具合を修正しました。

- 1280x720/50p の P2 MXF をインポートすると常に Grass Valley HQ ファイルへ変換される。
- トランスコードをしながらメディアファイルをインポートするとタイムコードが付与されない。

- メディアファイルを XDCAM MXF 形式へ変換、もしくはエクスポートすると再生できないファイルが作成されたり、T2 がフリーズする。
- キャプチャ中のクリップを XDCAM 形式へエクスポートした際、追っかけエクスポートされないことがある。
- Grass Valley HQ ファイルへトランスコードするとフィールドオーダーが正しくない。
- IP アドレスが競合していると T2 が起動しない。
- T2 の FTP サーバーにおいて、SIZE、LIST、NLST コマンドが正しく動作しないことがある。
- Bin 上でネスト化されたプレイリストを削除し、ゴミ箱を空にするとエラーが発生することがある。
- Bin 上でキャプチャ中のクリップを含むフォルダを複製後、そのフォルダを削除することができなくなる。
- キャプチャされたクリップのプロパティダイアログのコンテナフォーマットが空欄になる。
- R1 で作成したサブクリップを P1/P2 でループ再生できない。
- 4ch 以上の音声を持つメディアファイルの再生時にプレイヤーのオーディオのモニターチャンネル設定において “3+4” を選択できない。
- ワークステーションモードのキーボードショートカットのカスタマイズで、プレイリスト内のイベントのエンドエフェクトが動作しない場合がある。
- プレイリストモードにおいて、3ch View 時に Trim を押して、1ch View に自動変更後、Trim を抜けた場合に、3ch View に戻るように改善。
- RS422 制御(BVW)で、リニアコントローラと T2 で動作ステータスの表示内容が異なることがある。
- メンテナンスツールで、直接ネットワークドライブからデータベースのリストアをすると、失敗することがある。

制限事項

保護されたオペレーティングシステムファイルが表示される

- | | |
|------|---|
| 現象 | USB ハードディスクなどからのインポートを行う際、インポータ画面に保護されたオペレーティングシステムファイルが表示されます。 |
| 回避方法 | 本事項は現在の仕様となり、回避策はありません。保護されたオペレーティングシステムファイルは、誤って消さないようご注意ください。 |

特定の設定を行うと T2 のシャットダウンに時間がかかる

- | | |
|------|--|
| 現象 | T2 の設定(再起動時の状態)にて、「ブラウザタブの接続状態を保持する」がチェックされていない場合は、T2 のシャットダウンに時間がかかります。 |
| 回避方法 | T2 の [設定] > [その他] > [再起動時の状態] を選択し、「ブラウザタブの接続状態を保持する」オプションにチェックをつけてください。 |

特定のプレイリストを TWF ファイルとしてエクスポートできない

- | | |
|------|--|
| 現象 | 1つのプレイリスト内にフレームレートの異なるクリップが混在する場合、そのプレイリストを TWF ファイルとして出力することはできません。 |
| 回避方法 | 本事項は現在の仕様となり、回避策はありません。 |